

「越谷サンシティ整備基本計画」のポイント

1 本事業の背景 (P1~2)					
2 検討経緯 (P3~10)					
① 越谷サンシティの現状					
② これまでの検討					
③ 越谷サンシティ整備懇談会 (委員数25人、会議数5回)			参考<市のサンシティ整備基本計画策定フロー>		
④ ホール検討部会 (委員数10人、会議数3回)			③越谷サンシティ整備懇談会		
⑤ 市民ヒアリング (まちづくり関係、子育て関係等10団体)			④ホール検討部会		
⑥ マーケットサウンディング (不動産デベロッパー、ゼネコン等16社)			⑤市民ヒアリング		
			⑥マーケットサウンディング		
			整備基本計画(案)		
			パブリックコメント		
			整備基本計画		
3 新たな越谷サンシティの整備に向けたコンセプト (P11~14)					
<p>今年度、新型コロナウイルス感染症の拡大により、人々の暮らしは大きな変容を余儀なくされた。そうした状況のなかで、将来、私たちが想定していないような変化が起こり得ることを十分に意識して、新たな越谷サンシティには、どのような「もの・場・空間」が必要なのか。そして、決して「ハコモノをつかって終わり」ではなく、「人」を中心に据えて、それぞれの人にマッチした「もの・場・空間」をつくっていくためには、どのような施設整備を行っていくかを考えていかなければならない。こうした視点に立ち、①~④をコンセプトとする。</p>					
<p>① シビックプライド(郷土愛)を醸成するシンボリックな空間の形成 ② 人を育て、人から愛される施設 ③ 広い視野を持った『にぎわい』づくりと経済効果の実現 ④ 最新テクノロジーの導入、活用</p>					
4 施設整備・機能の検討 (P15~22)					
4つのコンセプトに基づく施設整備、機能の検討として「①施設整備の考え方」「②公共施設(機能)と民間施設の考え方」の2点について提示する。施設規模の詳細、施設配置等は、今後、事業者公募に向けて手続きを進めていくなかで、「実施方針」や「要求水準書」において定めていく。					
①施設整備の考え方 (1)建て替え (2)民間活力の活用 (3)防災拠点・気候変動への対応					
②公共施設(機能)と民間施設の考え方					
(1)公共施設(機能)の方向性	イベントホール	大、小、展示ホール(現施設と同程度以上)			
	図書室	現図書室と同機能			
	出張所	現出張所と同機能			
	広場	市民の憩い/イベントの開催			
(2)民間施設の方向性	民間事業者の提案により決定するが、公共施設(機能)との相乗効果が期待できる施設・機能を検討(アリーナ、サテライトオフィス、MICE、ホテル、商業施設、産業振興や文化創造に寄与する施設、職業体験施設、子育て関連施設など)				
→民間施設の一部に公共機能の取り込みが可能かどうか検討					
5 事業手法の検討 (P23~24) (P28)					
公共施設および民間施設一体での整備・運営を基軸として					
○ 公共と民間の公平かつ持続可能なリスク分担の在り方を模索し、					
○ 民間事業者の創意工夫を最大限取り入れられるような事業手法を検討する					
6 整備スケジュール、想定事業費 (P25~27)					
① 整備スケジュール	令和2年度(2020年度)	令和3年度(2021年度)	令和4年度(2022年度)	令和5年度(2023年度)	令和6~9年度(2024~2027年度)
	整備基本計画策定	実施方針(案)/要求水準書(案)策定	実施方針/要求水準書/募集要項策定 →事業者公募【決定】	実施設計	既存施設の解体 新施設の建設
② 想定事業費	約128億円【解体費用(25億円)、イベントホール・出張所(103億円)】				